

## 【はじめに】

2008年より臨床工学技士の増員と業務拡大に伴いPCI業務に携わるようになった。業務内容はIVUS操作、物品管理、データベースの入力である。PCIデバイスは多種多様でサイズも豊富なことから、業務を円滑に行える様、各種デバイス表を考案した。また、治療の詳細把握のためにPCIレポートを作成したので考察を含め報告する。

【方法】ガイドワイヤーは形状や特徴をまとめた表、バルーンとステントは種類とサイズごとに分類し、縦軸に径、横軸を長さとし視覚的にとらえやすいよう梱包されている箱の色を用い特性をふまえ比較しやすい表を作成しカテ室に常備した。また、PCIレポートは医師を含めたスタッフとの合同カンファレンス時に患者背景、治療法、使用材料を記載している。さらにレポートには冠動脈のシェーマを描くスペースを設け治療に生かせるようにした。

## 【まとめ】

今回我々は表形式のデバイス表を作成したことにより、各種デバイスのサイズや特性が一目でわかり、これらの情報をスムーズに医師へ提供できるようになった。PCIレポートにおいては、技士間で情報を共有することが可能となり十分に治療を把握することができるようになった。今後は新しいデバイスの採用に伴い定期的なデバイス表の見直しが必要であり、PCIレポートに関しては予定と実際の治療結果を比較し検討することで今後の症例に生かすことも大切である。